

なんとしても
人命を守るための

津波浸水想定ってなに？

岩手県は、津波防災地域づくりに関する法律に基づき、津波浸水想定を設定し、令和4年3月に公表しました。

岩手県が公表した津波浸水想定は、「**なんとしても人命を守る**」という考えの下、**避難を中心**とした津波防災地域づくりの検討を行うためのものです。そのため、広範囲での浸水が想定される「**最大クラスの津波が悪条件下**において発生した場合」での津波浸水想定を設定しました。



最大クラスの津波とは？

沿岸地域に**大きな被害をもたらす津波**のことで、過去に実際にあった津波や今後発生することが予想される津波から決めたものです。発生頻度が数百年～千年に一度、あるいはそれ以上のものもあります。



岩手県で最大クラスの津波が発生する地震とは？

明治三陸地震（1896年）や昭和三陸地震（1933年）、東北地方太平洋沖地震（2011年）のように**過去に発生した地震**と、日本海溝モデル*や千島海溝モデル*のような**今後発生することが予想される地震**の合わせて**5つの地震**があります。

* 2020年に内閣府（国）が公表したモデルです。



悪条件下とは？

- 地震（広域地盤沈下）
地震による**広域地盤沈下**を見込んでいます。
東日本大震災時にもこのような地盤沈下は発生しています。
- 地震（構造物等の沈下・破壊）
地震に対して**耐震性が十分でない施設は沈下や破壊**する条件としています。
※**震災後に新設した防潮堤**については耐震性が十分なため「**破壊なし**」の条件としています。

・耐震性がない場合

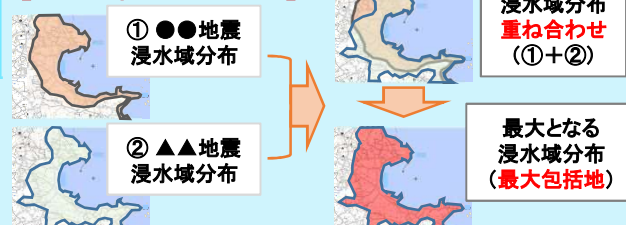


- 津波
津波が防潮堤・水門等を**超えた時点**で防潮堤・水門等を「**破壊する**」条件としています。
- 潮位
朔望平均満潮位としています。（東日本大震災発災時より約1m程度高い潮位）

浸水する範囲や深さの決め方って？

最大クラスの津波の何種類かで津波浸水シミュレーションを行い、それらの結果を**重ね合わせ**て、浸水する範囲や最大となる浸水の深さを表示しています。

【重ね合わせのイメージ】





影響開始時間とは？

津波の影響で、地震発生時から**20cm以上の水位の変化**が発生するまでの時間のことです。この20cmの水位の変化は、気象庁で津波注意報が発表される条件とされています。

国（内閣府）が公表した津波浸水想定図との違いは？

国は、**日本海溝・千島海溝モデルのみ**を対象として、岩手県内だけではなく**広域での被害の想定**等に役立てるために公表したよ。

岩手県は、**岩手県沿岸の24地域海岸***ごとに定めた**最大クラスの津波**を対象として、**防災・減災**を目的とした市町村の避難対策の見直し等や津波防災地域づくりの検討に役立てるために公表したよ。

*地域海岸とは、岩手県沿岸を湾の形状や山付き等の自然条件などから区分したものです。



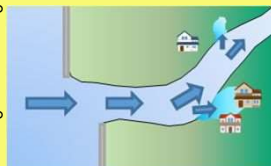
浸水想定図【参考】との比較

今回公表される**浸水想定図**は、**令和2年度末時点**の地形・施設整備状況を反映したデータを使用し、地震発生時や津波が堤防等を越えた時に**施設が壊れる条件**で作成しています。

一方、**浸水想定図【参考】**は、**復興・復旧事業が全て終わった状態**の地形・施設データを使用し、地震発生時や津波が堤防等を超えても**施設が壊れない条件**で作成しています。

河川の近くも危ない！？

浸水は河川からも広がります。河川に近い地域では、海から来る津波より先に河川から水が襲ってくることもあります。海岸沿いだけではなく、**河川の近くも危ない**ことを覚えておいてください。

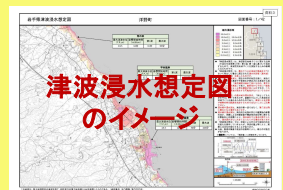


河川からの浸水イメージ

実際に見てみよう🔍

住んでいる地域の津波浸水想定図を「岩手県ホームページ」で見てください。

岩手県 津波防災地域づくり 検索



今後の取組み



岩手県は、市町村が今回の津波浸水想定を基とした**避難対策の見直し等**や**津波防災地域づくりの検討**を行うことを支援していきます。

津波防災地域づくりや津波浸水想定について、住民の方に正しくご理解いただけるよう、市町村への情報提供を行うとともに、**市町村と合同**で住民説明会等を開催する予定です。

2022年5月 第1版 発行（岩手県）

なんとしても
人命を守るための **津波浸水想定ってなに？**

詳しくはホームページで！

県土整備部 河川課 海岸担当 電話 019(629)5907